

中国遼寧省派遣交流職員レポート

皆さんこんにちは。

私は今、友好交流職員として中国東北部に位置する遼寧省瀋陽市に来ています。

そこで、皆さんに遼寧省のこと、中国での生活や文化についてレポートしたいと思います。



クリスマスの瀋陽繁華街
零下15度でもこの賑やかさ！

瀋陽の冬は寒く、最低気温は零下25度にもなります。当初はマンモスしか住めないのでは・・・と心配しましたが、写真のとおり、夜間でも人々は元気に外出しています。

中国の物価は安いという印象を持つ方が多いと思いますが、食料品以外の商品で日本より安い商品を見つけることは困難です。食料品も、中国産であれば安価ですが、輸入品は高い関税が課されているため高額です。私が普段購入するインスタントコーヒーや菓子類も日本の倍以上の価格です。衣料品も日本人の感覚からすると全般的に高く感じます。品質が良いかということと必ずしもそうではないため、購買意欲はなかなか湧きません。MADE IN CHINAのユニクロの商品でさえ、日本で購入する方がはるかに安価です。中国人観光客が日本

で爆買いするのも納得されることでしょう。

店内では多くのスタッフが手持ち無沙汰に立っており、店に入るとスタッフがピツタリ後について商品の説明を始めるため、日本のように自由に商品を取ってみることは容易ではありません。また、熱心なのはこちらが購入を決めるまで、レジで支払いをしても「謝謝」の一言もありません。中国に来た当初はこのような無言のやり取りに戸惑い、私のほうが逆に「謝謝」と言っていました。買わないとスタッフが激怒した昔と比べると隔世の感がありますが、サービスの質や従業員教育についてはまだまだという印象を受けます。



冬の定番「火鍋」
体が温まります

中国料理と言えば脂っこいイメージを持つ方が多いと思いますが、全くそのとおりです。瀋陽では寒い気候の影響もあるのか味付けは辛めで、火鍋（しゃぶしゃぶ）や焼肉の店も多く、値段も良心的です。肉の種類も豊富で、ロバやカエルにもお目にかかりました。圧倒的に多いのが羊ですが、残念ながら私はあの癖のある匂いにはまだ慣れることができません。

お酒はビールと白酒（バイジュウ；アルコール度数40度以上の蒸留酒）が一般的ですが、中国人は冷たい飲食物を好まないため、ビールは夏でも常温で出されます。最近では若者を中心に赤ワインを飲むことも多く、公式の宴席でも赤ワインが定番となりつつあります。なぜか、白ワインはほとんど見かけませ

ん。

みなさんもお存知と思いますが、中国では白酒での干杯（杯を一気に飲み干すこと。「乾杯」ではありません。）が、互いに尊敬と友情を表明する重要な手段となっています。干杯は指名制で何度も回ってくるため、白酒の場合はかなりきついです。赤ワインであれば何とか持ちこたえられるようになりました。



瀋陽中心街
ある晴れた日の空

中国、特に東北部ではPM2.5による深刻な大気汚染があるのでは、と心配する方も多いと思いますが、全くそのとおりです。当局の指導により石炭の使用が制限されるため、年々その数値は漸減していますが、それでも年が明けてからは霧がかかったような日が時々あり、安心して外出することができません。PM2.5の数値を毎日スマホで確認する癖がつかいましたが、暖房を使用する冬季のみの問題なので、春が来るのが待ち遠しいです。

最後に、トイレ事情です。昨年11月末、習近平国家主席が全国各地のトイレを整備する「トイレ革命」を推進するよう通達を出したことは、日本でも大きく報じられました。中国では現在、観光地を中心に公衆トイレの改善を図っています。中国の公衆トイレには仕切りがなく、用を足す際、隣の人と顔を合わせることから「ニーハオ（こんにちは）トイレ」と呼ばれるほか、悪臭や不

衛生さが指摘され、外国人観光客には敬遠されてきました。多くの日本人を始め、外国人にとって、汚くて悪臭漂う中国のトイレは恐怖そのもの、できるだけ行きたくない存在でした。でも、今はもう心配はいりません。個室の仕切りはありますし、清掃も行き届いています。ただ、鍵が壊れていたり、鍵があっても何故か締めない人がいるので、その点についてはまだまだ恐怖ですが・・・